三鷹市立高山小学校　令和8年度【　道徳　】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○毎学期、学年で重点指導する価値項目を決め、児童の日常生活に応じた指導を心がけた。児童は自分自身のこととして捉えた振り返りをするようになった。 ○ワークシートに書くことで、児童は自分の意見を表現することができていた。書いたことを基に発表、話し合いにつながった児童も見られた。 ○話し合いを通して、自分と同じ考えを知ったり、違う考えに気付いたりすることができた。	○教材の登場人物の気持ちを考えたり、自分の経験と結び付けたりしながら、意欲的に発言する児童が多い。 ○一方で登場人物の気持ちを考えることにとどまり、道徳的価値について自分自身の生活や経験と関連づけて考えることには課題がある。 ○善い・悪いなどの一面的に判断をする傾向があり、同じ場面でも様々な考え方や感じかたがあることに気が付く経験を更に積み重ねる必要がある。	○教材の内容理解や登場人物の心情を問う発問が中心となり、児童が道徳的価値について自分自身との関わりについて考えるための発問が十分でないことがある。 ○発言ができる児童を中心に授業が進みやすく、全ての児童が自分の考えをもって学習に参加するための手だてを工夫する必要がある。 ○授業の終末に感想を書くことが中心となり、学習を通して自分の考えがどのように変化したり、深まったりしたのかを振り返る活動を更に充実させる必要がある。
第2学年	○ワークシートは内容に応じて作成したものを使用することで、より内容項目に迫ることができ、導入部と終末部で日常の振り返りをすることで、児童の考えを深めることができた。 ○①発問・指示を受けて、ワークシートに考えを書く。②書けた人は、考えを教師に見せる。③ペアやグループで意見を共有する（話し合いや学習用タブレット端末など）。④学級全体で話合う。４つのステップで行うことで発言が苦手な児童も考えを伝え合うことができた。 ○教科書の内容を役柄を意識して読み聞かせることで、内容理解が深まり、登場人物と自分とを重ねて思考することができた。	○ペアやグループで相談、質問し合う場を設定することで言語化できる児童が増え、話合うことができるようになってきた。併せて、全体で発表をすることを好む児童も出てきた。 ○役割読みや役割演技、動作化等を通して内容理解が深まり、登場人物と自分とを重ねて思考することができるようになってきている。反面、自分が未経験のことは想像できず、考えを書けない児童がいる。 ○積極的に発表することが苦手な児童は、自分の考えに自信がもてないと、振り返っていることが多かった。 ○自分の思いがあっても言語にすることが難しく、文章で記述するのに時間がかかってしまうと、展開での深まりが不十分なことがあった。	○話すことが苦手な児童も話し合いに参加できるように、二人組、班の話し合いから、学級全体での話し合いに広げ、話し合いを中心に、内容項目に迫れるような展開の工夫をする。 ○導入部で内容項目に関わる児童の日常の振り返りを行い、終末部で日常の振り返りに触れて実践意欲を高められるようにする。 ○内容項目に迫る発問に絞って書かせることや、自分の考えに自信がもてるように書かせることをねらって、ワークシートを活用する。 ○学習用タブレット端末などのＩＣＴを活用し、話し合い活動を活発にできるように工夫する。
第3学年	○日常の場面とつなげながら考えさせることで、めあてとする道徳的価値について自分事として考えることができた。 ○様々な話し合いの場を設定することで、友達と意見を交流しながら、他者の意見も取り入れて考えを深めさせることができた。	○ほとんどの児童が自身の考えをワークシートにまとめることができている。 ○授業の導入と終末で日常の場面を想起させることで、自分事として道徳的価値に迫れる児童が見られるようになってきた。 ○ペアやグループでの話合い活動では活発に自分の考えを伝えられる児童が多いが、全体での発表となるとやや消極的になる。 ○自分の意見や考えをもっているものの、それを言語化することが難しく書くことに時間がかかる児童がいるため、考えを深めたり広げたりする活動ができないことがあった。	○児童同士での話合い活動を取り入れ、友たちの意見を聞いて参考にするなどして自分の意見をもてるようにする。 ○各々の考えのよさを価値付け、自分の意見に自信をもてるよう声掛けや学級の雰囲気をつくる。 ○ペアや小グループ、全体など、様々な形態で話し合いの場を設定し、児童が多様な見方や考えに触れたり、主体的に考えたり伝えたりすることができるようにする。 ○児童がじっくり考えたり、十分に意見交換できたりする時間を確保できるように授業展開や発問の工夫をする。
第4学年	○本時のねらいや考えさせたい価値項目を明確にし、板書することで、児童の思考の視点をはっきりさせることができた。 ○ペアトークを多く取り入れたので、自分の考えを表現したり、友達と考えの違いを話し合ったりすることができた。また、発表に慣れることで、全体の前でも発表できる児童が増えた。 ○振り返りの時間を十分に確保することで、価値項目について考えを深めたり、自身の生活について振り返ったりすることができるようになった。	○年度の初めにオリエンテーションを実施し、道徳の学習の目的や振り返りの視点について共通理解した。授業の中でも意識して学習に取り組むことができている児童が多い。 ○導入では主題について自分の生活を振り返り、問題意識をもって学習に参加している。 ○意見交流では、ペアや小グループでの話合いから、全体発表へと進めている。ペアや小グループでは自分の考えを伝えられるが、学級全体では発表する児童に偏りが見られる。 ○学年で共通のノートを使用し、自己の振り返りを記録している。導入での問題意識と関連させ、自身の生き方を振り返っている児童もいる。一方で、教材の感想や問題解決の方法を述べることにとどまる児童も見られる。	○導入時に、本時のねらいとする価値について振り返る。児童が日常生活について具体的に振り返られるような問いかけをし、問題意識をもって学習に臨めるようにする。 ○全体での意見交流では、児童の発言について教師が全体に問い返しを効果的に行うことで、児童が自分の考えを発信できるようにする。 ○自己を振り返る際、視点を提示し、時間を十分に確保することで、教材の解釈に留まらず、自分の過ごし方や生き方について考えを深められるようにする。
第5学年	各時間の内容項目を意識した授業を行うとともに、本時のねらいとする価値について明確に板書することで思考の視点をはっきりさせることができた。 ○児童同士が交流する時間を多く取り入れることで、表現する機会と様々な価値観に触れる機会を多く確保することができた。 ○話合いだけでなく、動作化やネームプレートを黒板に貼るなど、多様な表現方法を取り入れることで、児童が自分の考えを表すことができた。 ○全体で議論する際には、児童が中心となって発言をつないでいけるように、話型を提示することで、教師が発言する機会を極力減らすことができた。	○道徳の授業は担任を交換することで、授業内容の充実につながっている。 ○学年で共通のワークシートを年間を通して使用していくことで、児童が振り返りまでの学習の見通しをもって学習に取り組んでいる。また、ワークシートを道徳ファイルに保存していくことで、児童が自分の学びを振り返ることができるようにしている。 ○教材に出てくる主人公の言動を、自分の生活や行動に置き換えて考えることが苦手な児童が一定数いる。また、道徳的価値について、自分の生活と結び付けたり、自分ごととして捉えたりすることが難しい児童がいる。 ○全体での発言をする児童に偏りが見られる。	○一人ひとりの児童が学習課題を自分ごととして考え、問題意識をもつことができるようにするため、行事の時期や児童の実態を考慮して扱う教材や時期を精査していく。導入もアンケートを取り上げたり、二択の投げかけをしたりしながら当事者意識をもたせていく。また、「自分ならどうするか」「なぜ迷うのか」という葛藤に焦点を当てた問いかけを行うことで本音を引き出していきたい。 ○全体の中での発表を躊躇する児童がいるため、賛成・反対を示すハンドサインを取り入れたり、ペアやグループなど少人数での対話形式を適宜取り入れたりすることで、様々な価値観に触れることができるようにしていく。また、引き続き動作化や黒板、情報機器の有効活用なども積極的に行っていく。
第6学年	○授業開きで道徳科の目指す授業の在り方についておさえることで、各時間に価値項目を意識して自分自身を振り返られるようになった。 ○主発問では、考えて書く時間を十分に確保できた。また、話合い活動を終えた後にも考えを書く時間を設けることでより深まった考えを書くことができた。 ○学級全体での話し合いでは発言者に偏りがあるが、ペアやグループでは活発な意見交換を行うことでき、学級全体でも発言する人は増加傾向にあり、多様な価値観に触れることができた。 ○視点を提示することで自分自身の行動・考えを明確に振り返ることができた。ほかの児童の振り返りを紹介することで自分自身について振り返ることができるようになった。	○道徳の授業は、担任を交換することで、授業内容の充実を図っている。 ○ペアやグループの小グループの話し合いでは、児童の交流が活発に行われている。一方、全体での発表では、積極的に発言する児童に偏りが見られる。 ○振り返りでは、これまでの自分自身の考え方や行動を振り返り、価値項目について自分事として捉え、これからの生活をよりよくしようと考える児童がいる。一方、内省ができず、教材や授業の感想にとどまる児童もいる。	○道徳の授業開きでは、詩を活用し、教科書の導入の学習をしっかりと行った。道徳科の目標や目指す授業の在り方についておさえ、各時間の価値項目を意識した授業を行っている。 ○児童が自分の考えを書く時間を十分に確保できるようにしたり、話し合いの場を設定したりすることで、様々な道徳的価値に気付くことで、主体的に話合いに取り組めるようにしている。 ○授業の中では、他の児童と話し合う活動を多く取り入れ、多様な価値観に触れることができるようにしている。また、必要な場面で問い返しを行うことで人間理解や価値理解を深められるようにしている。 ○ワークシートを活用して、毎時間の振り返りを行う。児童が価値項目について効果的に内省ができるように、ワークシートに書く発問を簡潔に分かりやすくする工夫をしている。